

学科	こどもの生活学科	氏名	高田由基		
<p>家政学部の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能と②家政に関する専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・pisa型学力を統合的に身に付け、社会に出てからは、これらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成することである。</p> <p>イ ライフスタイル学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住の面から支援することのできる人材を育成することである。</p> <p>ロ 管理栄養学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、管理栄養士の資格を生かして、チーム医療、健康増進・疾病予防、食育・栄養指導又は健康をテーマにした食品の研究・開発等で活躍することによって、人々の日常生活を健康の面から支援することのできる人材を育成することである。</p> <p>ハ こどもの生活学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の資格を生かして、こどもたちの学力および社会性・社会力の基礎・基本を育てることによって、人々の日常生活を子育ての面から支援することができる人材を育成することである。</p>					
1 教育の責任					
こどもの生活学科を中心に、管理栄養学科やライフスタイル学科の授業も担当している。主に保育士・幼稚園教諭・小学校教諭を目指す学生の資格取得や試験合格に向けた専門科目・共通科目を受け持っており、自身の小学校教員としての経験を生かした工夫を行っている。また、授業以外にも就職指導や学生指導を通じ、学生の成長を多角的に支援している。	科目名	学科	開講期	受講者数	備考
	基礎演習Ⅰ・Ⅱ	こどもの生活	1年前期/後期	37/37	卒業必修科目 初年次教育
	専門演習A・B	こどもの生活	3年前期/後期	49/50	卒業必修科目 初年次教育
	体育科教育法(A)(B)	こどもの生活(A)(B)	3年前期	43	教職必修科目
	健康運動実技B	管理栄養	2年後期	21	資格必修科目
	運動の科学	ライフスタイル	1年前期	43	共通科目
	体育実技	ライフスタイル	1年後期	42	共通科目
	他9科目				
2 教育の理念と目的					
<p>学びの主体は学生自身であり、教師の役割はその学びを最大限に引き出す環境を整えることである。単なる知識習得に留まらず、自ら問題を発見・解決する能力を身につけてほしいと願っており、常識にとらわれない視点を提供することで新たな気づきを促している。また、提出物への丁寧な添削指導を通じ、「今なぜ何を学ぶのか」という自分なりの意味づけを持たせることを重視している。</p>					
3 教育方法					
<p>演習、グループワーク、模擬授業、実技など多様な方法を取り入れている。</p> <p>ICT・学外連携：基礎演習でのICT活用や、小学校・幼稚園の見学を実施。</p> <p>フィードバックの工夫：学生の手書きレポートをスキャンして共有し、議論の種にするほか、模擬授業では児童役の学生からもフィードバックを行う。</p> <p>教材の視覚化：文部科学省の資料や動画スライドを活用し、視覚的な理解を助けている。</p>					
4 授業改善の活動					
<p>昨年度のアンケートで寄せられた「専門用語が難しい」という意見を真摯に受け止め、用語解説の丁寧化や板書の工夫を改善した。また、授業終了後のアンケートだけでなく、リアクションペーパーを活用して学生のレディネス（学習準備状態）に合わせた柔軟な授業展開を心がけている。体育科教育学会への参加、他大学教員との定期的</p>					

<p>な勉強会を通じて、多角的な視点から授業改善を図っている。</p>
<p>5 学生の授業評価</p>
<p>シラバスでの明示に加え、授業内でも繰り返し評価基準を説明している。その結果、アンケートの「評価基準の明確さ」については学生から比較的高い評価を得ている。平常点（レポート、小テスト）や学修行動（社会人基礎力）を総合的に評価し、成果を可視化している。</p>
<p>6 学生の学修成果</p>
<p>「初めは難しかったがだんだんわかるようになった」という声に象徴されるよう、ワークを中心とした授業設計により一定の学習成果が得られている。多くの学生がシラバスの到達目標を達成できたと回答しており、個別添削による意欲喚起も成果を上げている。</p>
<p>7 授業科目に関連した教材開発</p>
<p>従来の教科書だけでは理解が困難な学生のために、学生の誤答傾向を分析したオリジナルの解説プリントを作成・配布している。専門科目においては最新の研究論文や事例を紹介し、より高度な知識・技能の習得を支援している。</p>
<p>8 指導力向上のための取り組み</p>
<p>2025年3月には大修館書店より『持久走・長距離走この授業革命』を刊行し、実践的な指導アイデアの発信を行った。また、実際の小学校での授業や教員研修も担当している。さらなる専門性の追求のため、新年度からは大学院博士課程にも籍を置き、最新の知識を学生指導に還元することを目指している。</p>
<p>9 今後の目標</p>
<p>短期目標：アクティブラーニングの手法をより効果的に取り入れ、学生同士の協働的な学びを促進する授業設計を工夫する。</p> <p>長期目標：公立小学校教員採用試験の合格者を増やすため、頻繁な面談を通じたきめ細やかなサポートを行い、熱意と人間味のある教育者を育成する。</p>
<p>10 添付資料</p>
<p>添付資料1：シラバス 添付資料2：授業評価アンケート 添付資料3：学生が作成したレポート、発表資料</p>